

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーター」を育成するために！

平成 27 年度

# KTC授業アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

## 平成27年度KTC授業アンケート調査結果について

学校の教育プログラムの内容や効果は、さまざまな立場の人々にとって重要なものです。学生、保護者、雇用者、社会全般、そして教職員は、教育プロセスの実践や結果に「利害関係」を持った「関係者」です。学生は必ずしも自分で自由に選んだとは限らない活動、すなわち学校が選んで用意した活動に、何年にもわたって多くの日々と時間を費やすことになるわけですから、学生にとって「関係者」は特に大きな存在となります。

学生はその教育の結果が、時間と労力を投資するに値するかどうかすぐにはわからないかもしれません。大人として社会経験を何年も積んで初めて、教育の価値を高く評価できるようになるでしょう。しかし学生は、短期間の学習で得られる成果をよく見抜くため、学生自身の感情や反応は特に学習プロセスとそのプロセスの結果の有効性を見る大切な機会になります。そして学生の学習経験に対する反応は、プログラムの有効性を強調する前向きな経験にも、プログラムを妨害する後ろ向きの経験にもつながることになるのです。

知識そのものには、退屈とか面白いということはないのかもしれませんが、つまらないか面白いかは、学習する者が修得した知識や洞察力、技術によって決まるのではないのでしょうか。したがって、学生の興味を持続させるためには、自身の進歩や成長を学生に実感させることが重要な要素の一つとなります。

以上のことから、授業アンケートは学校が学生に提供する学習活動や経験の価値と有効性を評価するための非常に重要な手段になります。この授業アンケートは現在の結果を精査する一手段となっており、教育プログラムを改善する試みがなされた際に、結果として生じた変化を追跡することも可能です。

私たちはCDIOスタンダードに基づき、教育プログラムを継続して改善していくために、注意深くこのデータを分析していかなければなりません。2018年から始まる新しいKTCに向けて、私たちはこれから頻繁に革新的な授業方法や教材を試すことになるでしょう。アンケート調査結果は、これらの試みに対する結果を観察するうえで特に重要なツールとなります。何より大切なのは、私たちが学生に最善の教育を提供できているのかをこのアンケートによって確認することなのです。

ここにKTC教育評価委員会、教員の方々、学生、そしてこの調査にご協力いただいたすべての方々に感謝を記したいと思います。

平成28年6月

金沢工業高等専門学校  
校長 ルイス・バークスデール

The content and effectiveness of a school's educational programs are important to many categories of people. Students, guardians, employers, society at large, as well as faculty and staff all have a stake in the operation and outcomes of the educational process. For students the stake is especially large, since students devote hours of their days over years of their lives to the activities chosen and directed by a school, not necessarily chosen freely by the student.

A student might not know right away whether the educational outcome is worth his or her investment in time and effort. It may take years of experience as an adult in society before the worth of an education can be appreciated. Even so, learners have good insight into at least the near-term outcomes of their studies, and the feelings and reactions of the students themselves provide an especially valuable window on the effectiveness of the learning process and the outcomes of that process. And student reactions to their learning experience feed back into that experience—positive experiences enhancing the effectiveness of a program, and negative ones hindering it.

There may be no knowledge that is inherently boring or interesting—whether something is boring or interesting depends on the knowledge, insights, and skills that a learner has gained. So it is important to structure learning experiences in order to maximize their interest. And an important way to maintain interest is to make sure that students are able to feel that they are making progress, that they are learning and developing.

The course questionnaire data is thus a very important tool for assessing the value and effectiveness of learning activities and experiences that the school offers its students. It provides a way to probe current results, and also enables the tracking of changes as efforts are made to improve the educational program.

We must carefully analyze this data in order continuously improve our programs under the CDIO Standards. As we prepare for the new KTC which will start in 2018, we will frequently be trying out innovative classroom techniques and course materials. Course questionnaire data will be a particularly important tool for monitoring the outcomes of such experiments. Most important of all, we must monitor this data to ensure that we are giving our students the best possible education.

I would like to express my thanks to the KTC Education Assessment Committee, the faculty, the students, and all who helped with this survey.

June, 2016

Kanazawa Technical College  
Lewis Barksdale, President

## 1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、金沢高専の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、金沢高専全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであるが、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。

## 2) 調査の概略

調査の概略は下記の通り。

項目	内容		
分析データ件数 対象者		H27年度のべ回答数	H27年度在校生数
	1年生	1,600件	110名
	2年生	1,445件	106名
	3年生	1,270件	91名
	4年生	1,928件	107名
	5年生	1,597件	107名
	全体合計	7,840件	521名
	・最終回収数は7,904件であったが、回答数が10件未満など、一部の科目(11科目、64件)は集計から除外している。		
対象科目	237科目(春学期に実施された8科目も含む)		
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。</li> <li>・調査票は学生が回収し、教員ではなく事務局に届けるものとした。</li> <li>・回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。</li> </ul>		
調査主体	学校法人 金沢工業大学		
集計	有限会社 アイ・ポイント		

### 3) 実施スケジュール

H27年度の調査のラフスケジュールは下記の通り。

作業	ステップ	時期	備考
速報版作成作業	調査実施	2月5日～2月18日	各授業の最終日に実施(4年生のキャリアデザインのみ3/4に実施)
	データ入力	2月8日～2月22日	OMRにより処理
	速報版完成(4年生以外)	3月1日	4年生のキャリアデザイン以外のデータは2/17に受け取り
	速報版完成(4年生)	3月9日	4年生のキャリアデザインのデータは3/7に受け取り
最終報告書作成作業	報告書作成	4月4日	

### 4) 集計に関して

- 加重平均:各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。選択肢が「そう思う～そう思わない」などのような段階的な選択肢を用いた。加重平均はこれらの選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
- 学科別の集計は「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報学科」の3つの学科で比較を行った。「グローバル情報学科」は新しい呼称であり、2年生から5年生は「グローバル情報工学科」の所属であるが、新しい呼称に統一している。
- 部会は「一般」「語学」「数理」「T(電気電子工学科)」「M(機械工学科)」「G・J(グローバル情報学科)」の6つとした。
- 回答数が10件未満などで除外した科目(11科目、64件)は下記となる。

●OP科目:31件

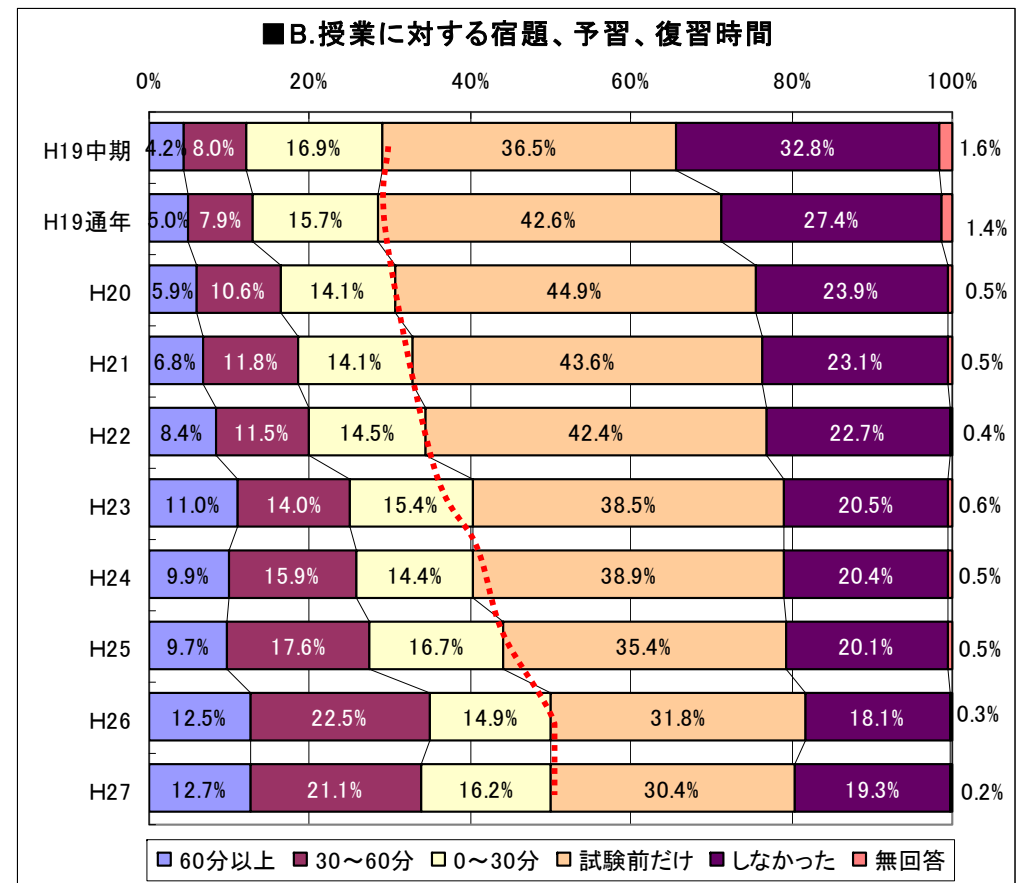
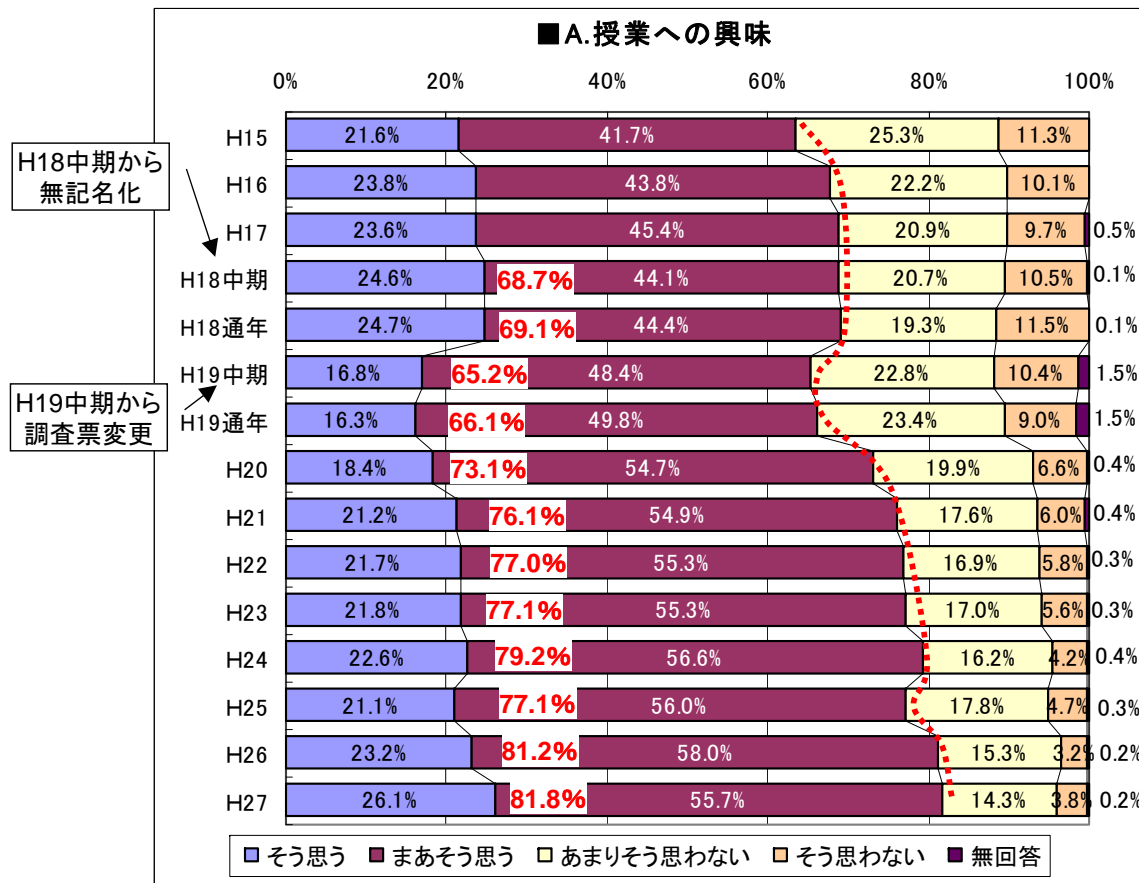
23074電気回路Ⅱ(OP)	2件
23094電気磁気学Ⅱ(OP)	2件
25205材料力学Ⅰ(OP)	5件
25265機械設計(OP)	5件
28136情報処理Ⅲ(OP)	9件
28146ビジネスシステム(OP)	8件

●回答数が10件未満の科目:33件

26012応用物理Ⅰ	6件
26032計測制御Ⅱ	6件
29016電気電子工学Ⅱ	8件
29033計算機システムⅢ	8件
29063英語作文技法	5件

## 1) 授業への取り組み姿勢

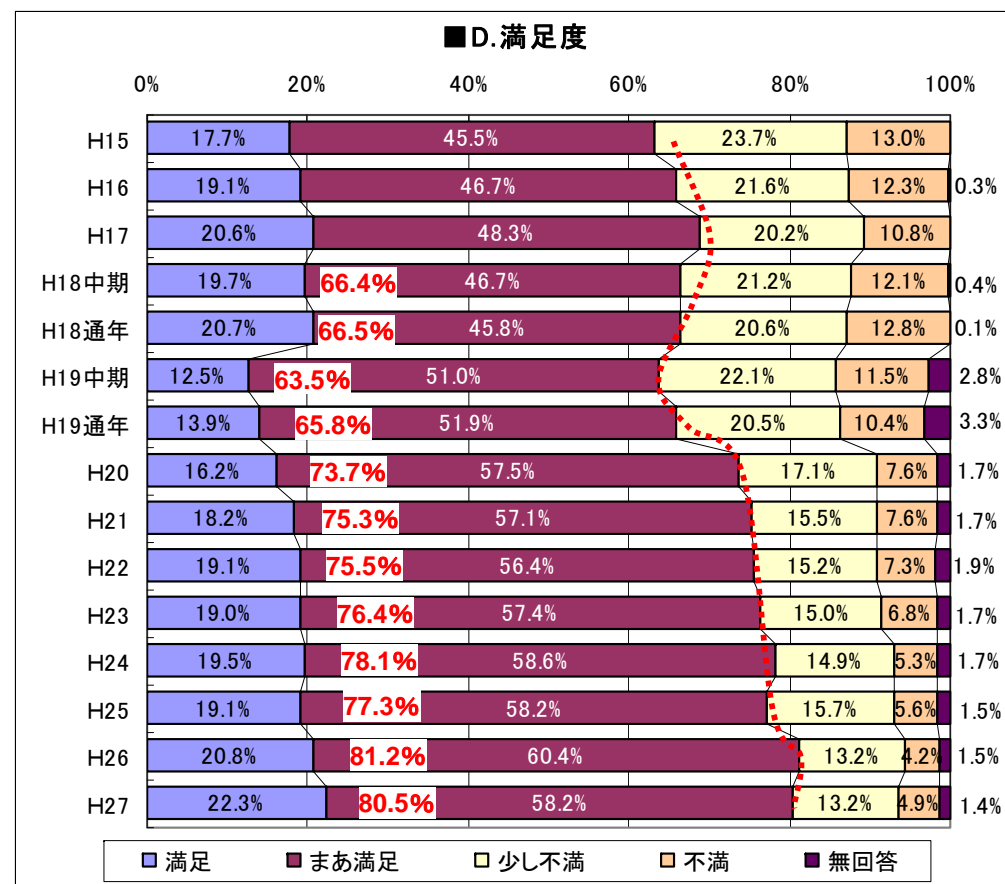
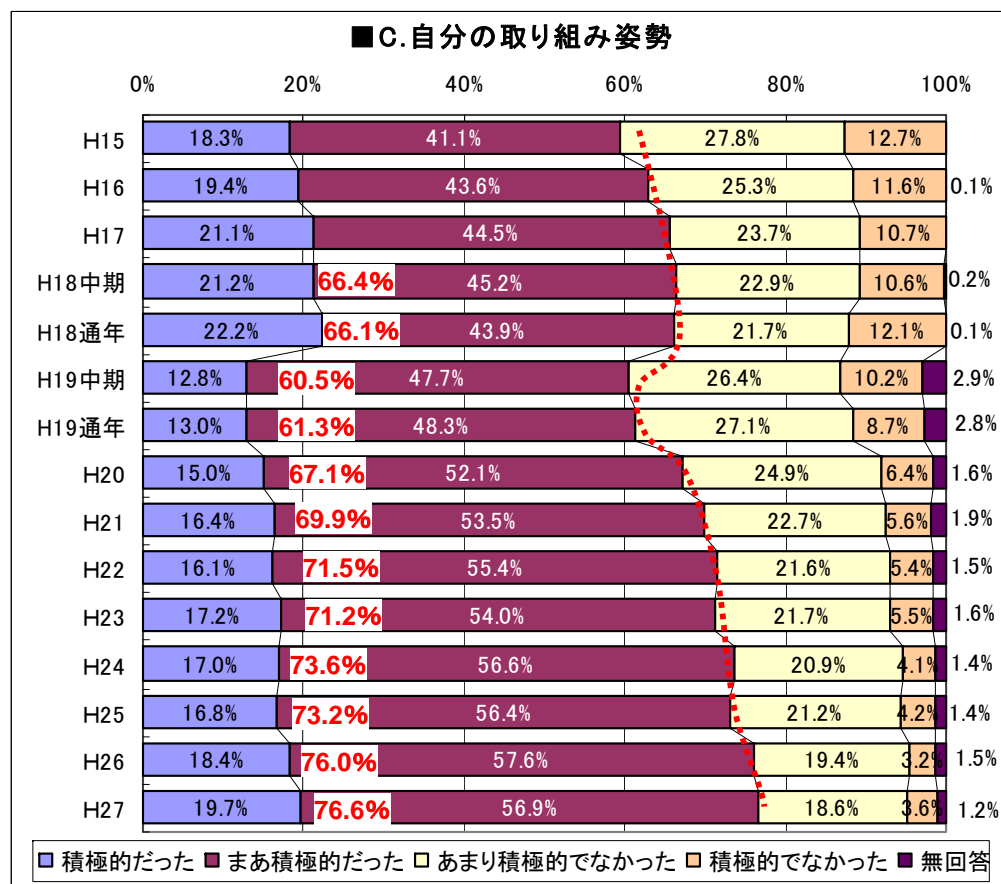
- 「A. 授業への興味(あなたは、この授業に興味を持って受けられたと思いますか?)」に対しては、「そう思う」が26.1%、「まあそう思う」が55.7%で、合わせると81.8%が肯定的な意見となっており、前回より0.6ポイント増加してこれまでで最高となっていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間(この授業に対し宿題を含めて、どの程度予習・復習しましたか?)」という問いに対しては、「60分以上」が12.7%で過去最高となり、「30~60分」が21.1%、「0~30分」が16.2%、「試験前だけ」が30.4%であり、「しなかった」が19.3%となっていた。
- 以前と比較すると、「60分以上」「30~60分」「0~30分」の合計は50.0%と半数となり、前回は0.1ポイント上回っていた。また、「しなかった」も前回は1.2ポイント上回る結果となっていた。



H18中期から  
無記名化

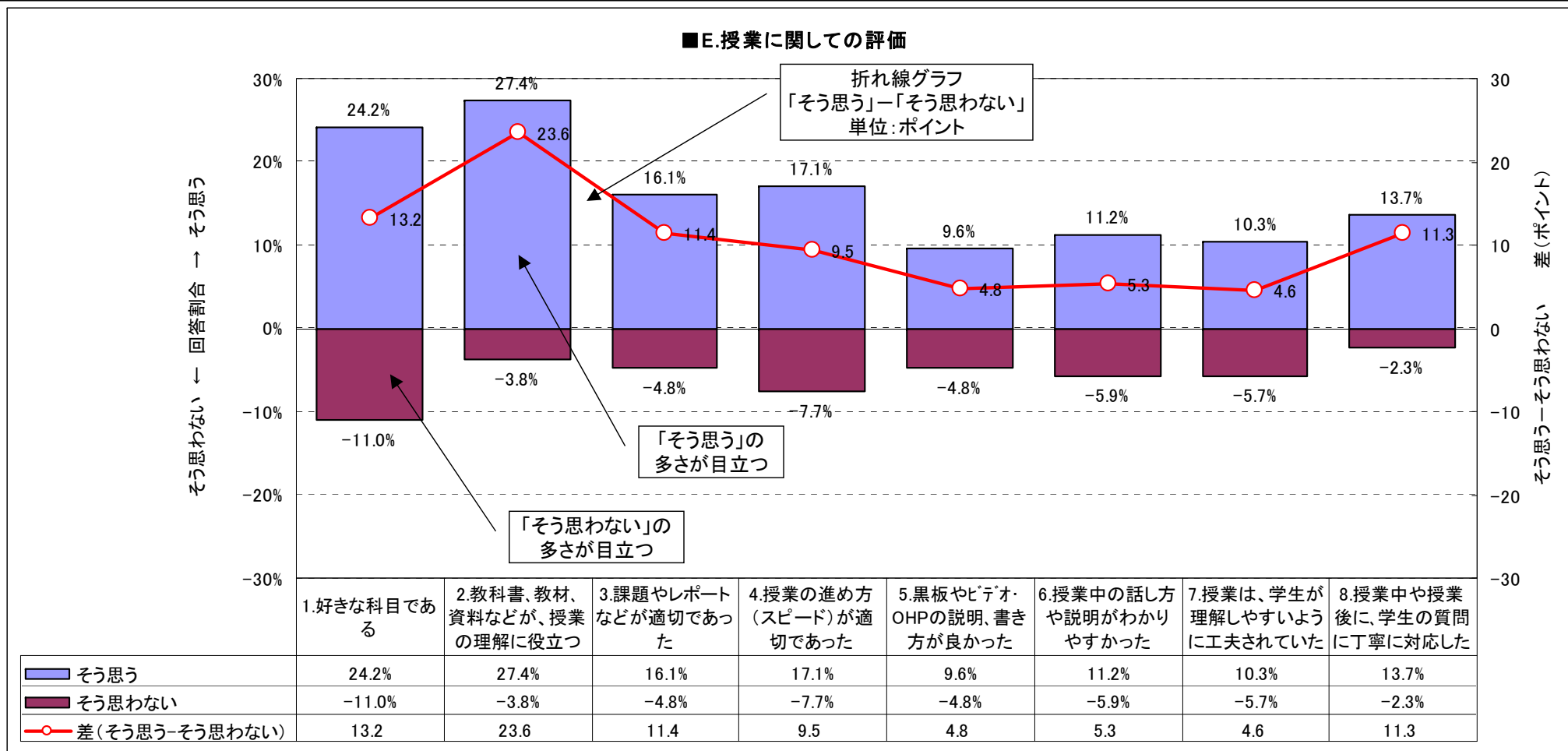
H19中期から  
調査票変更

- 「C. 自分の取り組み姿勢(あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか?)」に対しては、「積極的だった」が19.7%、「まあ積極的だった」が56.9%であり、合わせると76.6%が肯定的な意見であり、前回は0.6ポイント上回って過去最高となっていた。そして、否定的な意見は22.2%であり、過去最も低かった。
- 「D. 満足度(あなたはこの授業に満足していますか?)」に対しては、「満足」が22.3%と過去最高であった。しかし、「まあ満足」の58.2%と合わせた肯定的な意見は80.5%となり、前回は0.7ポイント下回っていた。そして、不満を感じているという意見は合計で18.1%となっていた。



## 2) 授業に関する評価

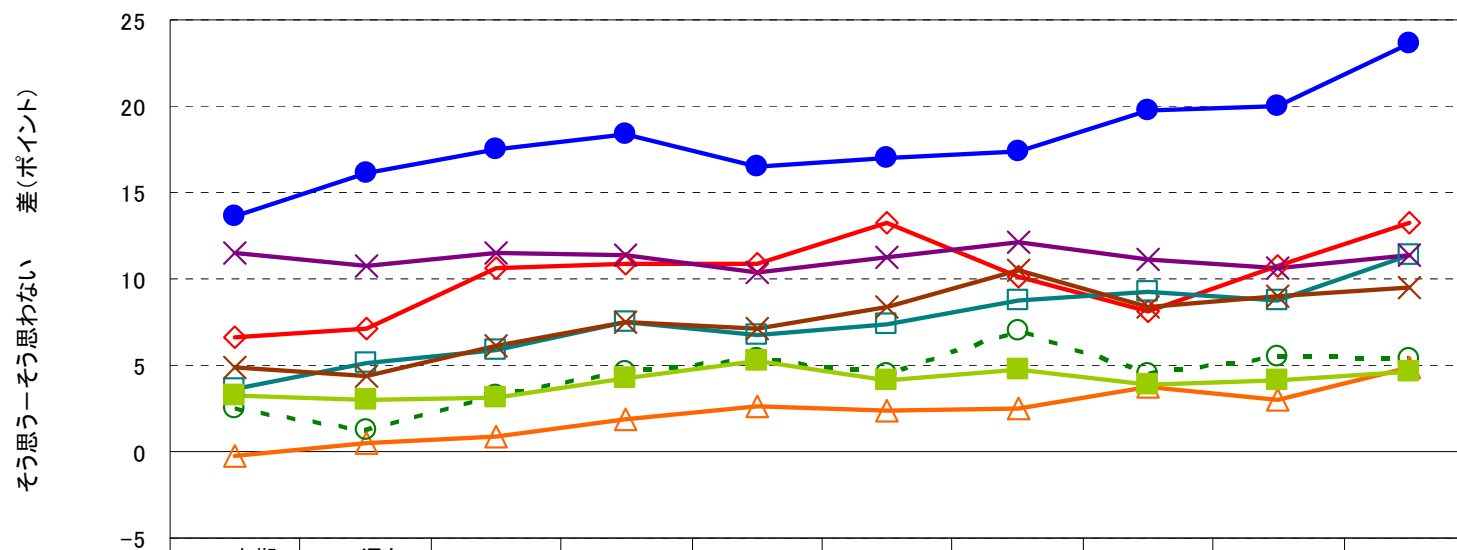
- 授業に関する評価は、棒グラフのプラス側で「そう思う」の割合、マイナス側で「そう思わない」の割合を表現し、「そう思う」から「そう思わない」を引いた数値(単位:ポイント)を折れ線グラフで表現している。
- 「そう思う」を比較すると、「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の評価が27.4%で最も高く、次いで「1.好きな科目である」が24.2%、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」が17.1%、「3.課題やレポートなどが適切であった」が16.1%で続いていた。
- 一方、「そう思わない」を見ると、「1.好きな科目である」が-11.0%で最も低く、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」が-7.7%、「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」が-5.9%と続いていた。
- 「そう思う」と「そう思わない」の差は、すべての項目でプラスとなっており、肯定的な意見の方が多かったことが分かる。最もポイントが高かったのは「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の23.6ポイントであり、「1.好きな科目である」が13.2ポイント、「3.課題やレポートなどが適切であった」が11.4ポイントで続いていた。





- 前項の折れ線グラフを時系列で比較したところ、下記のようになった。最も目立っていたのは「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の高さであり、調査を開始してからずっと肯定的な意見が多く、高い評価を保っていることが分かる。また、前年と比較すると3.7ポイント上回っており、過去最高となっていた。
- 上記に次いで「1.好きな科目である」が高く、H25から継続して評価を上げ、今回はH23に次ぐ高さとなっていた。
- 一方、評価が低めであったのは「7.授業は、学生が理解しやすいように工夫されていた」「5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった」「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」の3項目で、以前より大きな変化も見られなかった。

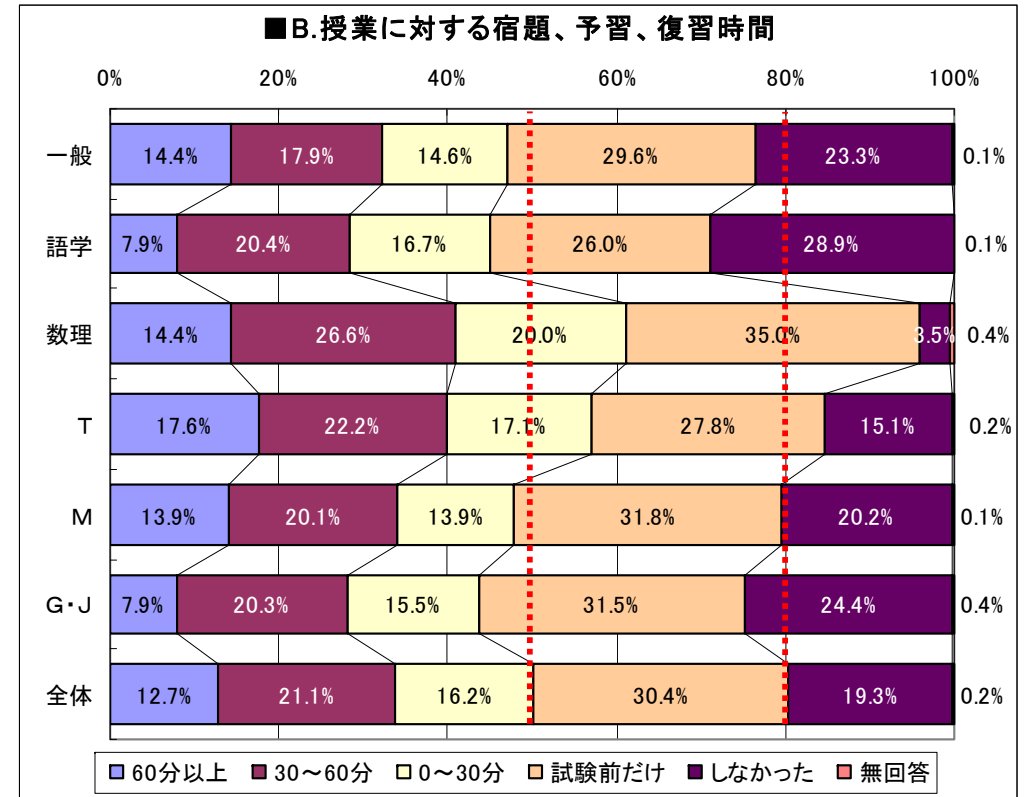
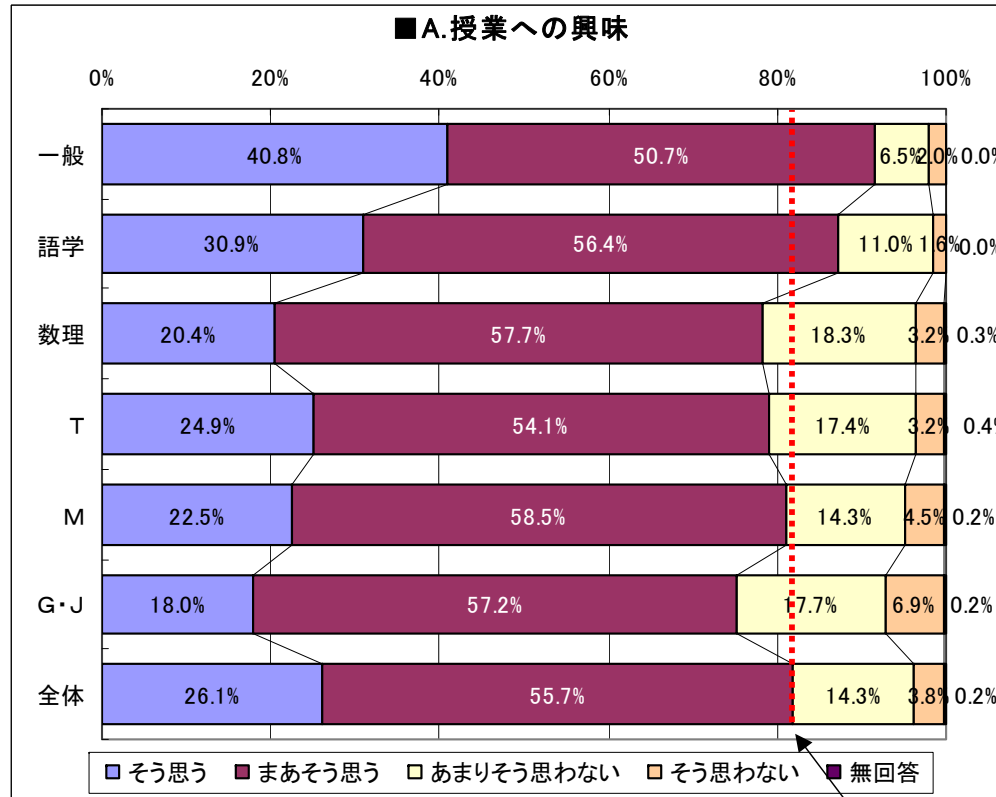
■E.授業に関する評価の時系列比較



	H19中期	H19通年	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
◆ 1.好きな科目である	6.6	7.1	10.6	10.9	10.8	13.3	10.1	8.1	10.8	13.2
● 2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ	13.6	16.1	17.5	18.4	16.5	17.0	17.4	19.8	19.9	23.6
□ 3.課題やレポートなどが適切であった	3.6	5.2	5.9	7.5	6.8	7.4	8.7	9.2	8.7	11.4
× 4.授業の進め方(スピード)が適切であった	4.9	4.4	6.2	7.5	7.2	8.4	10.5	8.4	9.0	9.5
△ 5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった	-0.2	0.5	0.9	1.9	2.6	2.4	2.5	3.8	3.0	4.8
○ 6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった	2.5	1.2	3.3	4.6	5.4	4.5	7.0	4.5	5.4	5.3
■ 7.授業は、学生が理解しやすいように工夫されていた	3.2	3.0	3.1	4.2	5.2	4.1	4.7	3.8	4.2	4.6
× 8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した	11.5	10.7	11.5	11.4	10.3	11.2	12.1	11.1	10.6	11.3

## 1) 部会別 授業への取り組み姿勢比較

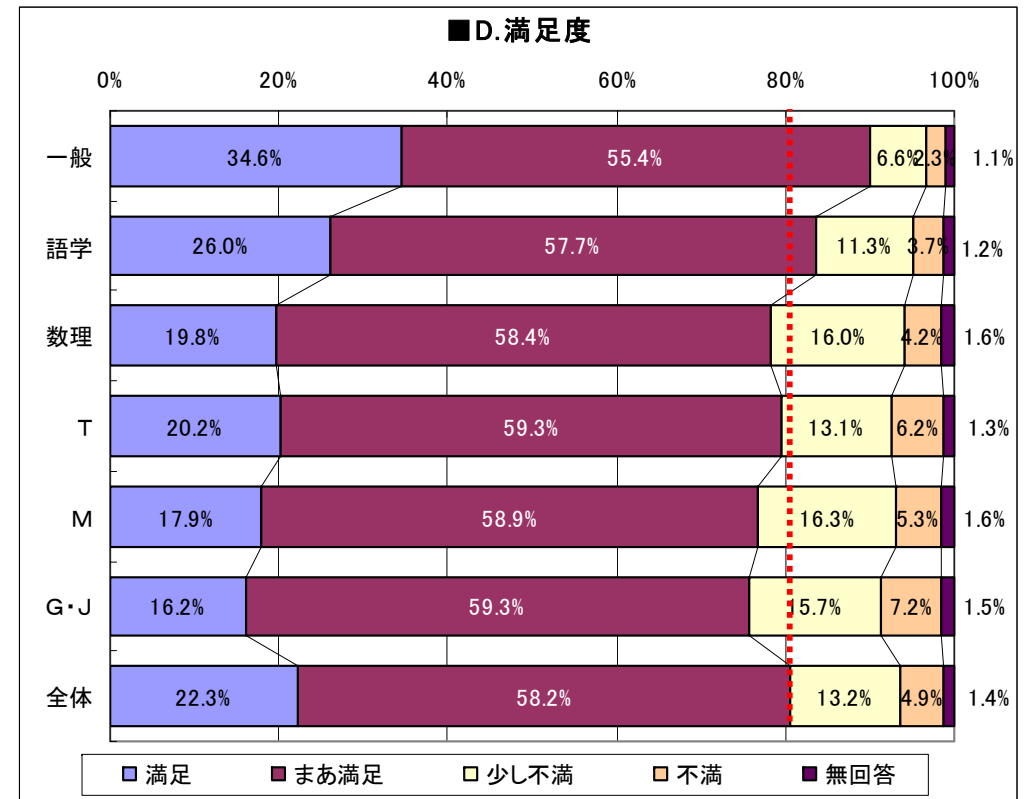
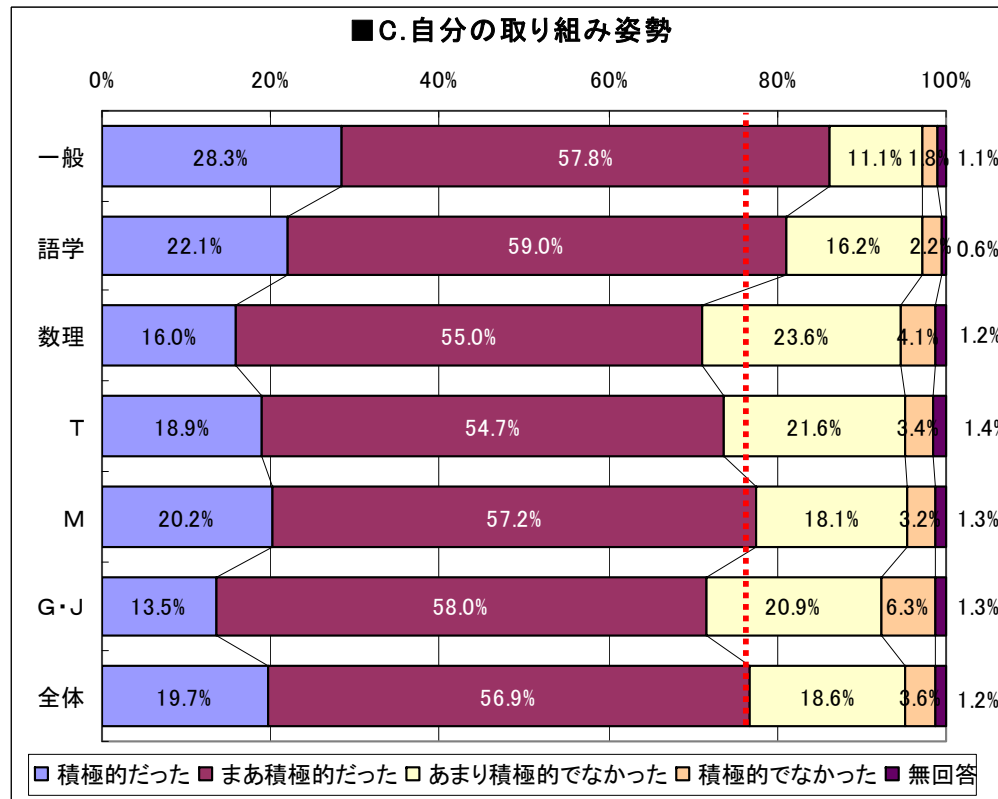
- 「A. 授業への興味」を部会毎に比較したところ、肯定的な意見が最も多かったのは「一般」の91.5%であった。また、「一般」では、「そう思う」という回答が40.8%と、授業への興味が非常に強いことが分かった。
- 「一般」に次いで肯定的な意見が多かったのは、「語学」の87.3%、「M」の81.0%であった。一方で最も少なかったのは「G・J」の75.2%であり、次いで「数理」が78.1%となっていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」は、「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計で部会別の比較を行ったが、最も学習時間が長かったのは「数理」の61.0%であり、「T」が56.9%で続いていた。特に「数理」では「しなかった」という回答が3.5%と、非常に少なかった。
- 一方、最も学習時間が短かったのは「G・J」の43.7%であり、「語学」も45.0%と短かった。そして、「しなかった」という回答を見ると「語学」が28.9%、「G・J」が24.4%であり、この2つの部会が目立っていた。



「全体」の肯定的な意見と否定的な意見の境界

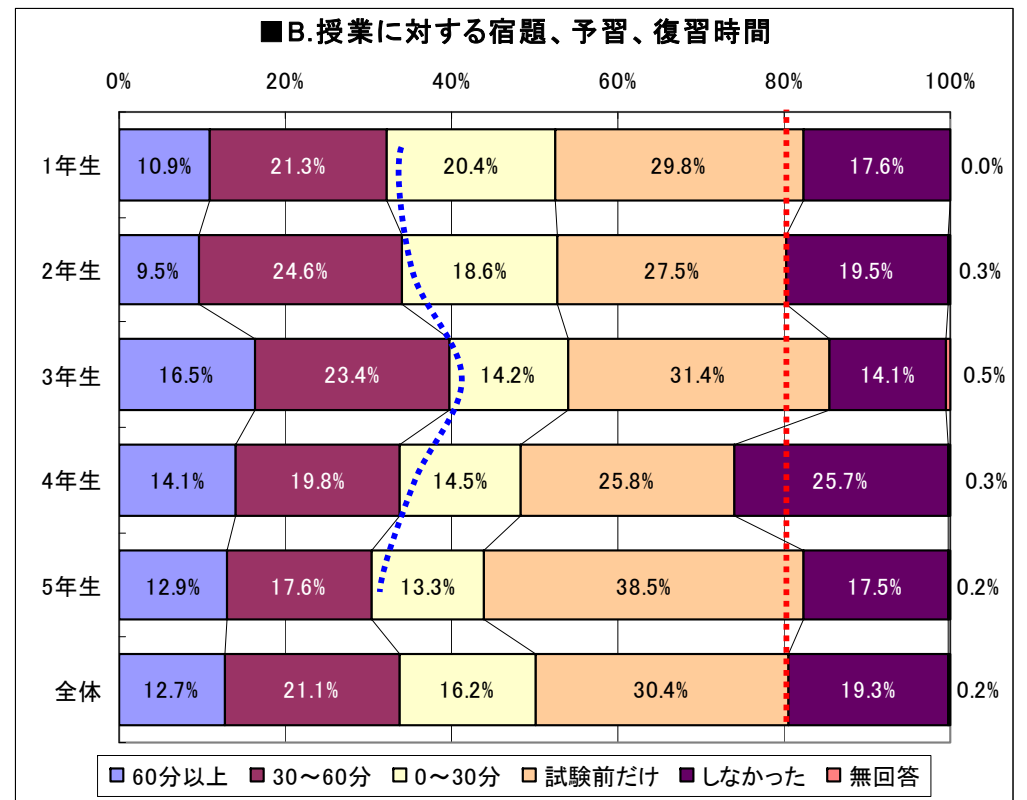
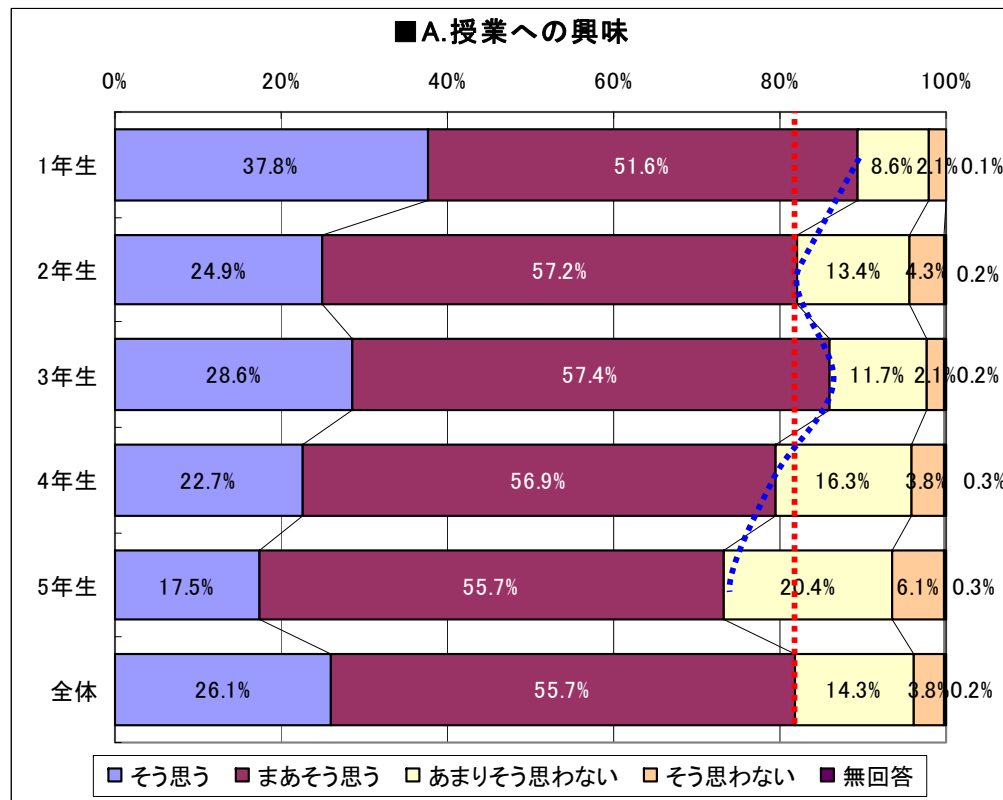
※部会の略称は以下の通り。T: 電気電子工学科、M: 機械工学科、G・J: グローバル情報学科

- 「C. 自分の取り組み姿勢」で肯定的な意見が最も多かったのは「一般」の86.1%であり、次いで「語学」が81.1%、「M」が77.4%が続いていた。一方、最も少なかったのは「数理」の71.0%であり、「G・J」が71.5%となっていた。
- 「D. 満足度」では部会による差が小さめであったが、最も満足度が高かったのは「一般」で、90.0%が授業に満足しており、「満足」という回答だけを見ても34.6%と、他の部会との差が大きかった。次いで、「語学」が83.7%、「T」が79.5%が続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「G・J」の75.5%で、「M」が76.8%となっていたが、両者ともに決して低い数値ではなかった。

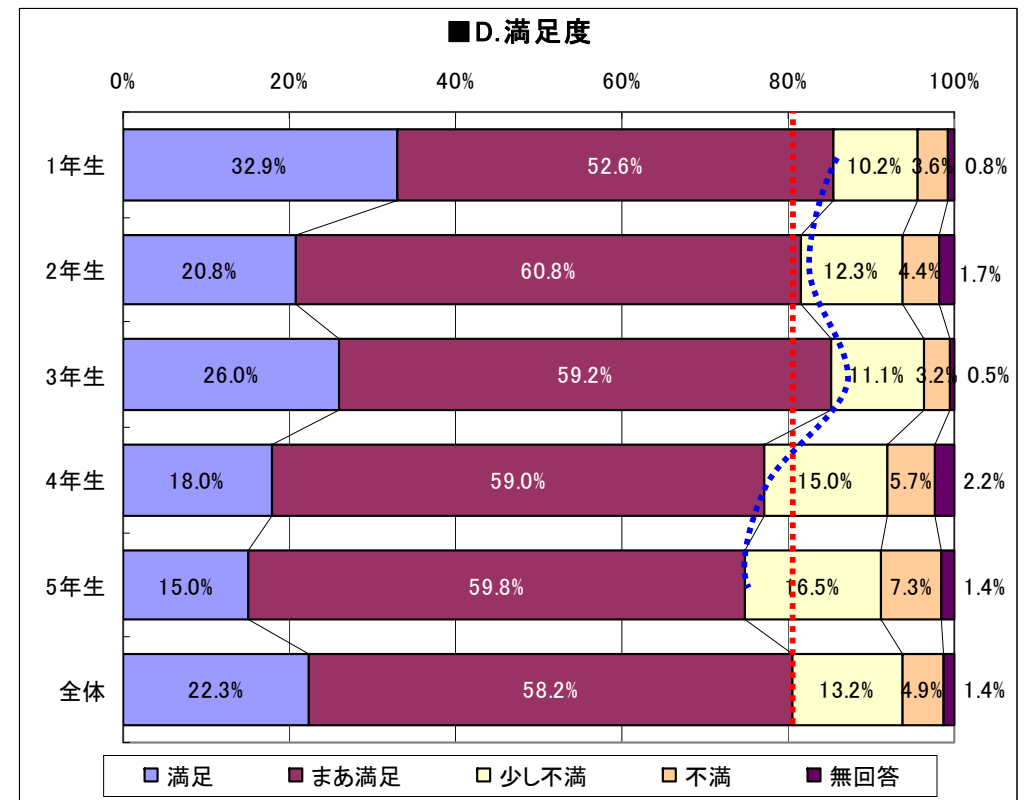
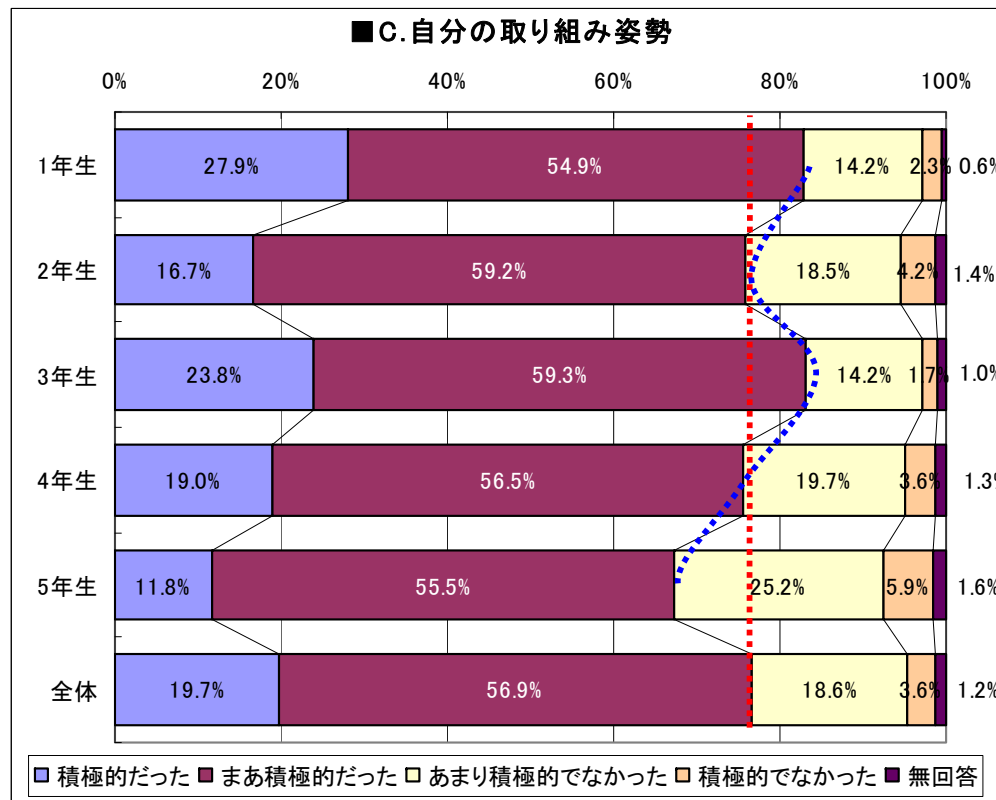


## 1) 学年別 授業への取り組み姿勢比較

- 「A. 授業への興味」を肯定的な意見の合計で比較すると、「1年生」が89.4%で最も高く、「3年生」が86.0%、「2年生」が82.1%と続いており、「5年生」が73.2%と最も低かった。「2年生」を除くと高学年ほど興味が低下する傾向が見られ、「1年生」と「5年生」の差は16.2ポイントであった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」は「60分以上」と「30～60分」の合計で比較したが、「3年生」が39.9%で最も勉強しているようであった。次いで、「2年生」が34.1%、「4年生」が33.9%であり、「5年生」が30.5%で最も少なかった。ただし、「しなかった」の割合だけを見ると「4年生」が25.7%で最も高くなっていった。

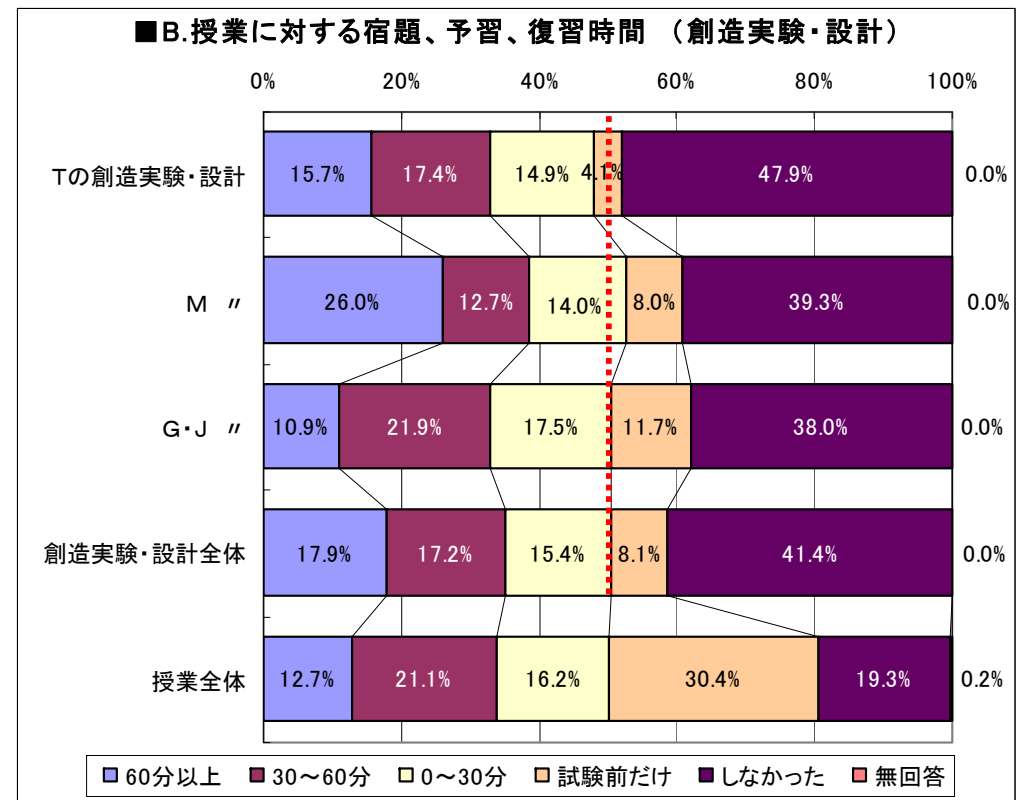
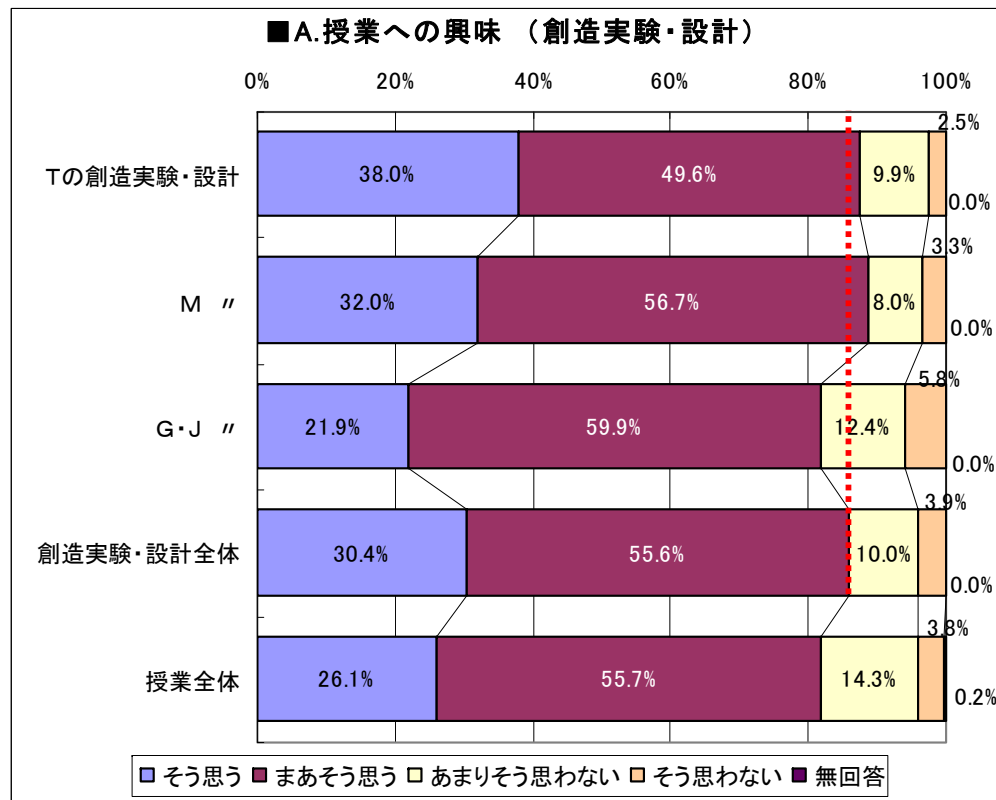


- 「C. 自分の取り組み姿勢」を肯定的な意見の合計で比較したところ、「3年生」が83.1%で最も高く、「1年生」が82.8%、「2年生」が75.9%で続いていた。ただし、「積極的だった」という回答だけで比較すると「1年生」が27.9%で最も高く、「3年生」を上回っていた。一方、最も低かったのは「5年生」で、肯定的な意見の合計は67.3%であり、「3年生」との差は15.8ポイントであった。
- 「D. 満足度」はすべての学年で高めであったが、中でも「1年生」の満足度が最も高く、肯定的な意見は85.5%であった。次いで、「3年生」が85.2%、「2年生」が81.6%となっていた。ここでも「満足」だけを見ると「1年生」が32.9%と最も高く、強く満足している学生が多いことが分かる。一方、最も満足度が低かったのは「5年生」であり、満足している肯定的な回答は74.8%であり、「1年生」との差は10.7ポイントであった。

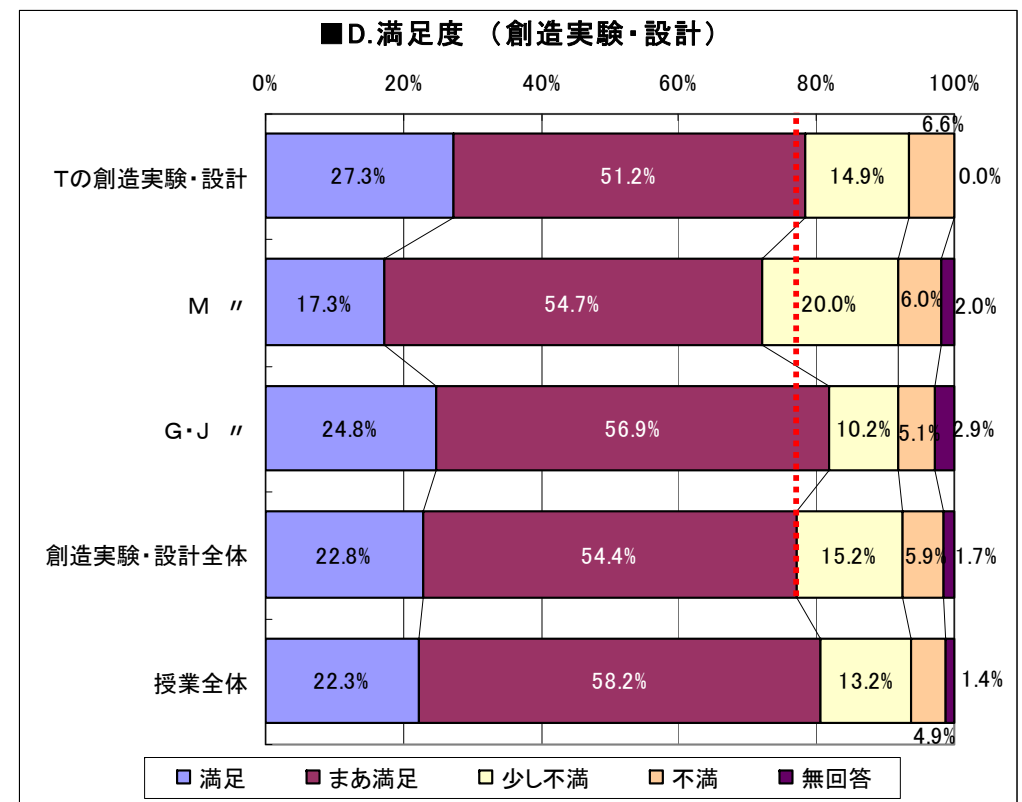
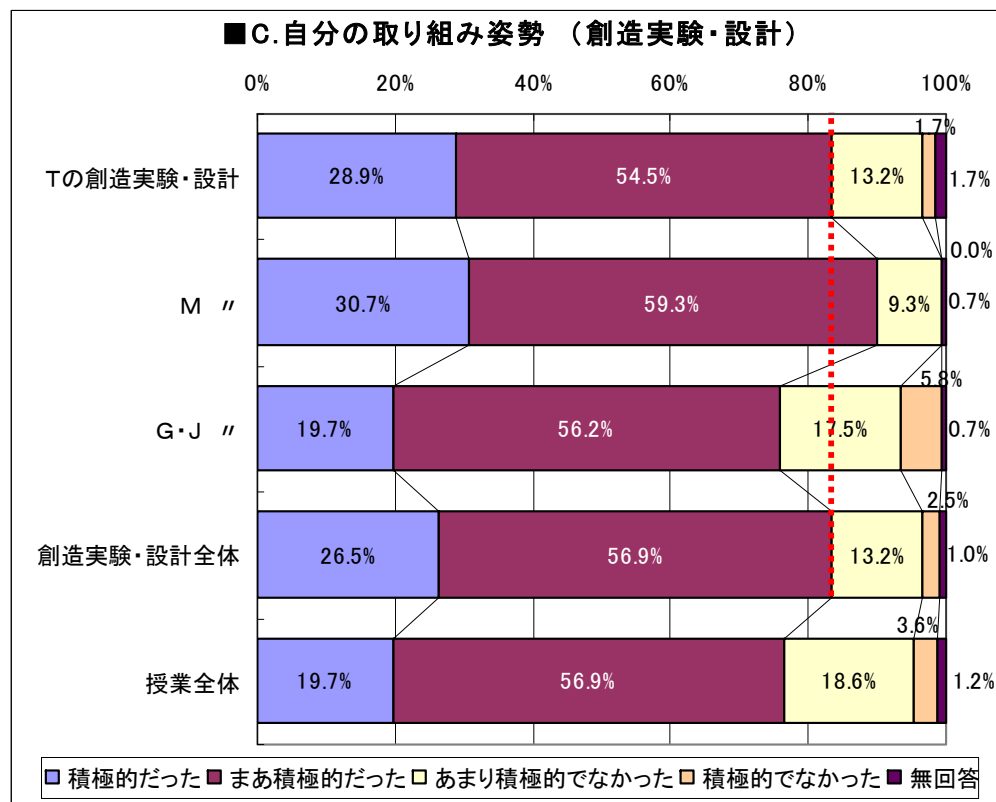


## 1) 創造実験・設計の授業への取り組み姿勢比較

- 「創造実験」と「創造設計」の授業について部会毎に比較を行った。
- 「A. 授業への興味」を肯定的な意見の合計で比較すると、「創造実験・設計全体」では86.0%が肯定的な意見であり、「授業全体」の81.8%を4.2ポイント上回っていた。また、部会別にも「M」の88.7%、「T」の87.6%は「授業全体」を上回っており、「G・J」の81.8%は「授業全体」と同じで、「創造実験・設計」の授業に興味を持って受けていることが分かった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」では、「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計で見ると「創造実験・設計全体」も各部会の割合も大きな差が見られず、「授業全体」との差も見られなかった。差が大きかったのは「しなかった」の割合であり、「創造実験・設計」の各部会では「しなかった」の割合が4割から5割前後と多く、学習時間を取っていない学生が多いことが確認できた。また、部会別では「M」で「60分以上」が多い点と、「T」で「しなかった」が多い点が特徴的であった。



- 「C. 自分の取り組み姿勢」では、「創造実験・設計全体」の肯定的な意見は83.4%で「授業全体」の76.6%を6.8ポイント上回っており、積極的に取り組んでいる様子が見えてきた。部会別に見ると「M」で肯定的な意見が90.0%と最も多く、次いで、「T」が83.4%、「G・J」が75.9%と続いており、「M」と「G・J」の差は14.1ポイントと大きく、「M」の積極性が感じられる結果となっていた。
- 「D. 満足度」で「創造実験・設計全体」を見ると、77.2%が肯定的な意見であり、「授業全体」の80.5%を3.3ポイント下回っていた。「満足」という回答だけでは「創造実験・設計全体」が0.5ポイント上回っているがほぼ同じで、「創造実験・設計全体」の満足度は平均的なものであったと言える。
- 部会別に満足度を比較すると、「G・J」で81.7%が肯定的な意見であり、最も多かった。次いで、「T」が78.5%、「M」が72.0%であり、「G・J」と「M」の差は9.7ポイントであった。



## 1) 一般

- 「興味」「積極性」「満足度」を加重平均で点数化し、H25とH26のスコアを部会別に比較した。
- H27の一般の科目では3つの指標共に「保健体育Ⅲ」が最も高く、「保健体育」はその他にも「Ⅰ」「Ⅳ」の評価が上位にあった。また、「国語Ⅰ」「社会科学Ⅱ」が高く、それらの同系の科目もいくつか上位に入っており、「積極性」の上位10科目は、ほとんどが関連する科目で占められていた。
- H26は「文化・芸術・思想ⅢA」が3つの指標共に最上位で、H27でも「興味」と「満足度」で関連の科目が挙げられていた。また、今回高かった「保健体育」「国語」「社会科学」に関連する科目は、H26にも上位の10科目に多く入っており、評価の高さがうかがえた。

### ■H26で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	文化・芸術・思想ⅢA	8.57	文化・芸術・思想ⅢA	7.38	文化・芸術・思想ⅢA	7.86
2	保健体育ⅣA	8.39	保健体育ⅣA	7.32	国語Ⅰ	7.34
3	国語Ⅰ	6.85	保健体育Ⅱ	6.17	保健体育Ⅰ	6.87
4	保健体育Ⅱ	6.81	保健体育Ⅲ	5.84	保健体育ⅣA	6.67
5	保健体育Ⅰ	6.41	国語Ⅰ	5.79	保健体育Ⅲ	6.49
6	保健体育Ⅲ	6.35	文化・芸術・思想Ⅰ	5.14	社会科学ⅡB	5.95
7	保健体育ⅣB	6.19	保健体育ⅣB	5.00	歴史Ⅱa	5.68
8	社会科学ⅡB	6.09	保健体育Ⅰ	4.72	保健体育Ⅱ	5.56
9	文化・芸術・思想ⅡA	6.00	文化・芸術・思想ⅢB	4.63	文化・芸術・思想ⅢB	5.56
10	文化・芸術・思想ⅢB	5.71	日本語スキルズa	4.47	保健体育ⅣB	5.48

### ■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	保健体育Ⅲ	8.45	保健体育Ⅲ	7.88	保健体育Ⅲ	7.99
2	社会科学Ⅱ	7.71	保健体育Ⅳ	7.39	社会科学Ⅱ	7.61
3	国語Ⅰ	7.46	国語Ⅰ	5.94	保健体育Ⅰ	7.08
4	保健体育Ⅰ	7.08	保健体育Ⅰ	5.77	国語Ⅰ	6.79
5	デザイン概論B	6.94	社会科学Ⅱ	5.63	歴史Ⅱ	6.74
6	歴史Ⅱ	6.68	社会科学Ⅰ	5.49	歴史Ⅰ	6.64
7	文化・芸術・思想ⅢB(2)	6.43	国語Ⅲ	5.49	社会科学Ⅰ	6.44
8	国語Ⅲ	6.40	歴史Ⅱ	5.44	デザイン概論B	6.39
9	文化・芸術・思想ⅢA(1)	6.36	デザイン概論B	5.28	社会科学ⅢA	6.32
10	文化・芸術・思想ⅢA(2)	6.36	社会科学ⅢA	5.26	文化・芸術・思想ⅢA(1)	5.91



## 2) 語学

- H27には「興味」は「世界事情Ⅱ」、「積極性」は「世界事情Ⅰ」の評価が最も高く、「満足度」では3位に「世界事情Ⅰ」が挙げられており、厳密には異なるものの、「世界事情」の評価が高かった。「世界事情Ⅰ」はH26にも高い評価となっており、高評価が継続していると言える。
- 上記と同様にH27には「総合英語」の評価が高く、「興味」と「満足度」では「総合英語Ⅰ(R)」、「積極性」では「総合英語Ⅲ」が2番目の高さであった。「総合英語」の同系の科目はその他にも10位以内に多く挙げられており、H26と同様に高い評価となっていた。
- H27の語学の科目で「満足度」が最も高かったのは「英語表現技法B」であり、「積極性」でも4位となっていた。「英語表現技法」はH26の「満足度」でも6位となっていた。

■H26で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	総合英語Ⅲ	6.03	世界事情Ⅰ	5.54	総合英語Ⅲ	6.32
2	総合英語Ⅲb	5.57	総合英語Ⅲ	4.71	世界事情Ⅰ	5.54
3	世界事情Ⅰ	5.41	総合英語Ⅲb	4.67	総合英語Ⅲb	5.17
4	上級英語Ⅰ	5.08	英語スキルズⅡ	4.63	総合英語Ⅰa	4.91
5	英語スキルズⅠ	4.95	総合英語Ⅱ	4.49	英語スキルズⅡ	4.72
6	総合英語Ⅰa	4.77	上級英語Ⅰ	4.32	英語表現技法	4.63
7	総合英語Ⅰb	4.73	総合英語Ⅳ	4.09	総合英語Ⅲa	4.62
8	総合英語Ⅱ	4.72	総合英語Ⅰb	3.85	総合英語Ⅰb	4.59
9	英語スキルズⅡ	4.50	総合英語Ⅲa	3.54	上級英語Ⅰ	4.58
10	英語表現技法	4.46	上級英語Ⅱ	3.48	総合英語Ⅱ	4.44

■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	世界事情Ⅱ	7.00	世界事情Ⅰ	5.65	英語表現技法B	6.43
2	総合英語Ⅰ(R)	6.76	総合英語Ⅲ	5.33	総合英語Ⅰ(R)	6.37
3	総合英語Ⅳ	6.19	英語スキルズⅠ	4.86	世界事情Ⅰ	6.14
4	英語スキルズⅠ	5.83	英語表現技法B	4.62	総合英語Ⅰ(G)	5.59
5	総合英語Ⅰ(G)	5.67	総合英語Ⅰ(G)	4.55	総合英語Ⅲ	5.43
6	英語表現技法A	5.67	総合英語Ⅰ(R)	4.49	世界事情Ⅱ	5.25
7	総合英語Ⅲ	5.60	英語スキルズⅡ	4.39	総合英語Ⅳ	5.24
8	世界事情Ⅰ	5.43	世界事情Ⅱ	4.00	英語スキルズⅡ	4.71
9	英語表現技法B	5.00	総合英語Ⅱ	3.95	英語表現技法A	4.67
10	上級英語Ⅰ	4.76	上級英語Ⅰ	3.94	上級英語Ⅰ	4.40

## 3) 数理

- H27の数理では、3つの指標共に「基礎数学Ⅱ」の評価が最も高く、「微分積分Ⅱ」が2番目の評価となっていた。そして、3位の科目は3つの指標で異なっていたが、「線形代数Ⅰ」が「満足度」で3位、「興味」と「積極性」で4位となっていた。また、「基礎数学Ⅱ」のスコアを見ると、3つの指標共に他との差が大きく、評価が非常に高いと言える。
- H26には上位の3科目が完全に一致しており、「微分積分Ⅰ」「基礎数学Ⅱ」「線形代数Ⅰ」の順となっていた。H27には「微分積分」が「Ⅰ」と「Ⅱ」で順位が入れ替わっていたが、関連する科目が上位となっており、似た評価となっていた。

■H26で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	微分積分Ⅰ	5.96	微分積分Ⅰ	5.93	微分積分Ⅰ	6.99
2	基礎数学Ⅱ	5.60	基礎数学Ⅱ	4.40	基礎数学Ⅱ	6.10
3	線形代数Ⅰ	4.86	線形代数Ⅰ	4.40	線形代数Ⅰ	5.57
4	応用数学Ⅰ	4.63	応用数学Ⅰ	3.94	応用数学Ⅱ	5.00
5	応用物理Ⅱ	4.20	微分積分Ⅱ	3.14	数理統計	4.61
6	物理・化学Ⅰ	3.85	応用物理Ⅱ	3.13	応用数学Ⅰ	4.39
7	微分積分Ⅱ	3.78	物理・化学Ⅲ	2.96	物理・化学Ⅲ	4.35
8	応用数学Ⅱ	3.67	応用数学Ⅱ	2.92	微分積分Ⅱ	4.27
9	数理統計	3.29	数理統計	2.63	応用物理Ⅱ	3.40
10	物理・化学Ⅲ	3.27	物理・化学Ⅰ	2.11	物理・化学Ⅰ	3.30

■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	基礎数学Ⅱ	7.14	基礎数学Ⅱ	6.50	基礎数学Ⅱ	7.32
2	微分積分Ⅱ	5.77	微分積分Ⅱ	4.73	微分積分Ⅱ	6.48
3	数理統計	5.00	物理・化学Ⅲ	3.58	線形代数Ⅰ	4.72
4	線形代数Ⅰ	4.44	線形代数Ⅰ	3.48	応用数学Ⅱ	4.49
5	応用数学Ⅱ	4.37	微分積分Ⅰ	3.45	数理統計	4.42
6	物理・化学Ⅲ	4.20	物理化学Ⅰ	3.23	微分積分Ⅰ	4.11
7	物理化学Ⅰ	4.09	数理統計	2.88	応用数学Ⅰ	3.77
8	微分積分Ⅰ	3.74	応用数学Ⅰ	2.69	物理・化学Ⅲ	3.69
9	応用数学Ⅰ	3.48	応用数学Ⅱ	2.57	応用物理Ⅱ	3.37
10	線形代数Ⅱ	3.06	線形代数Ⅱ	2.41	物理・化学Ⅱ	3.33

## 4)T

- H27の「電気電子工学科(T)」では、最も評価の高い科目が「興味」「積極性」「満足度」の3指標で異なっているが、「コンピュータ I」が「興味」で1位、「積極性」で2位、「満足度」で3位となり、高い評価であった。同様に「デザインメソッド I」は「積極性」で1位、「興味」で2位、「満足度」では4位になっており、高評価であった。
- 「満足度」が最も高かったのは「オペレーティングシステム」であり、「興味」と「積極性」も上位に入っていた。そして、「満足度」が2位だった「電気基礎」も、他の2つの指標で上位に入っていた。
- H26には3つの指標共に「インターンシップ」がトップであったが、H27にはどの指標の上位にも入っていなかった。その他では、「コンピュータ I」「オペレーティングシステム」はH26にも上位に見られ、今回(H27)も3指標に挙がっていた。また、今回(H27)から開講された「デザインメソッド I」は高評価であった。

## ■H26で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	7.67	インターンシップ	8.72	インターンシップ	7.67
2	コンピュータ I	7.00	創造実験 II	6.00	オペレーティングシステム	7.08
3	システム制御	6.56	情報工学 II	5.36	コンピュータ I	6.41
4	創造実験 I	6.28	創造実験 IV	5.24	創造実験 I	6.15
5	電気磁気学 I	6.03	電気磁気学 I	5.17	電気磁気学 I	5.71
6	創造実験 II	6.00	コンピュータ II	5.17	創造実験 II	5.67
7	創造実験 IV	5.98	電気回路 I	5.17	創造実験 IV	5.38
8	電気基礎	5.90	コンピュータ I	5.00	電気基礎	5.26
9	オペレーティングシステム	5.83	電気回路 II	5.00	システム設計 I	5.17
10	コンピュータ II / 電気回路 I	5.83	エンジニアリングマネジメントb	4.88	デジタル回路	5.13

## ■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	コンピュータ I	8.17	デザインメソッド I	7.59	オペレーティングシステム	7.50
2	デザインメソッド I	8.10	コンピュータ I	6.83	電気基礎	7.00
3	ソフトウェア工学	7.69	情報工学 I	6.72	コンピュータ I	6.67
4	創造実験 I	7.50	創造実験 I	6.67	デザインメソッド I	6.38
5	発変電工学	7.50	電気基礎	6.55	インターンシップ	6.29
6	情報工学 I	7.07	ソフトウェア工学	6.15	創造実験 I	6.17
7	電気基礎	7.00	オペレーティングシステム	6.00	電気法規と施設管理	6.15
8	設計製図	6.67	創造実験 III	6.00	発変電工学	6.11
9	創造実験 II	6.54	発変電工学	5.93	設計製図	6.00
10	オペレーティングシステム	6.50	設計製図	5.48	情報工学 I	5.86

## 5)M

- H27の「機械工学科(M)」では、「興味」と「満足度」で「デザインメソッド I」が最も高い評価となり、「積極性」でも4位となっていた。そして、「積極性」で1位だったのは「材料力学 I」であり、「興味」は上位に入っていなかったが、「満足度」は8位となっていた。
- その他を見ると、「インターンシップ」「機械工学概論 I」が上位3位に入っており、「エンジニアリングマネジメント」「機械製図 I」などの評価が高く、単一の科目が全体的に評価が高いというものは少なかった。
- H26には「インターンシップ」の評価が高く、H27もこの点は同じであった。他には「機械製図 I」の「満足度」の高い点がH27でも同じとなっていた。

■H26で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	7.50	インターンシップ	7.84	機械加工 I a	6.84
2	創造設計 I	6.54	情報処理 II	5.53	機械製図 I	5.54
3	機械加工 I a	6.28	創造設計 I	5.51	創造設計 I	5.38
4	情報処理 I	5.95	卒業研究	5.33	機械工学特論 I	5.21
5	創造設計IV	5.53	機械製図 I	5.26	情報処理 II	5.13
6	卒業研究	5.48	機械加工 I a	5.26	機械設計演習 I	5.00
7	機械工学特論 I	5.42	情報処理 I	5.00	機械設計演習 II	4.82
8	機械設計演習 I	5.13	創造設計 III	4.85	情報処理 I	4.73
9	機械製図 I	5.00	機械加工 II	4.74	インターンシップ	4.61
10	情報処理 II	5.00	創造設計IV	4.61	機械工学演習 I	4.57

■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	デザインメソッド I	7.18	材料力学 I	6.84	デザインメソッド I	6.41
2	インターンシップ	6.89	エンジニアリングマネジメント	6.39	機械工学概論 I	6.28
3	機械工学概論 I	6.67	インターンシップ	6.22	機械製図 I	5.64
4	機械製図 I	6.54	デザインメソッド I	6.15	機械製図 II	5.54
5	エンジニアリングマネジメント	6.53	創造設計 I	6.05	機械設計	5.54
6	創造設計 I	6.45	情報リテラシー	5.66	エンジニアリングマネジメント	5.42
7	機械製図 II	5.79	創造設計 III	5.66	情報リテラシー	5.39
8	情報リテラシー	5.79	機械製図 II	5.53	材料力学 I	5.00
9	卒業研究	5.63	卒業研究	5.47	機械工学実験 I	4.86
10	創造設計 II	5.54	創造設計 II	5.41	インターンシップ	4.86

## 6) G・J

- H27の「グローバル情報学科(G・J)」では、3つの指標の上位3科目を同じ科目が占める結果となっていた。まず、「積極性」と「満足度」の評価が最も高い「インターンシップ」は「興味」で2位となっていた。そしてそれと入れ替わるように、「プログラミング基礎」が「興味」で1位、「積極性」「満足度」で2位となっていた。また、「英語討議技法」は3指標で3位であった。
- 上記の3科目以外では、「ビジネスシステム」「デザインメソッドⅠ」「創造設計Ⅲ」などの評価が高めであった。
- 今回(H27)に1位、2位に挙げられた「インターンシップ」は、H26にも上位に見られていたが、その他にはH26に上位だった科目は今回あまり入っていなかった。

■H26で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	外国事情	7.00	日本文化	6.90	日本文化	7.73
2	日本文化	6.82	インターンシップ	6.29	外国事情	7.00
3	インターンシップ	6.52	コンピュータ演習Ⅰ	5.64	カレントイングリッシュ	5.91
4	計算機システムⅢ	5.56	外国事情	5.63	コンピュータ演習Ⅰ	5.88
5	卒業研究	5.48	国際コミュニケーションⅡ	5.37	ネットワークシステム	5.50
6	コンピュータ演習Ⅰ	5.38	創造実験Ⅲ	5.14	情報処理Ⅰb	5.33
7	創造実験Ⅲ	5.29	卒業研究	5.00	インターンシップ	5.15
8	情報処理Ⅰb	5.17	カレントイングリッシュ	4.77	英語総合技能Ⅰ	5.00
9	情報処理Ⅰa	5.16	情報処理Ⅰb	4.50	計算機システムⅠ	5.00
10	英語総合技能Ⅰ	5.15	ネットワークシステム	4.48	情報処理Ⅰa/ 創造実験Ⅲ	5.00

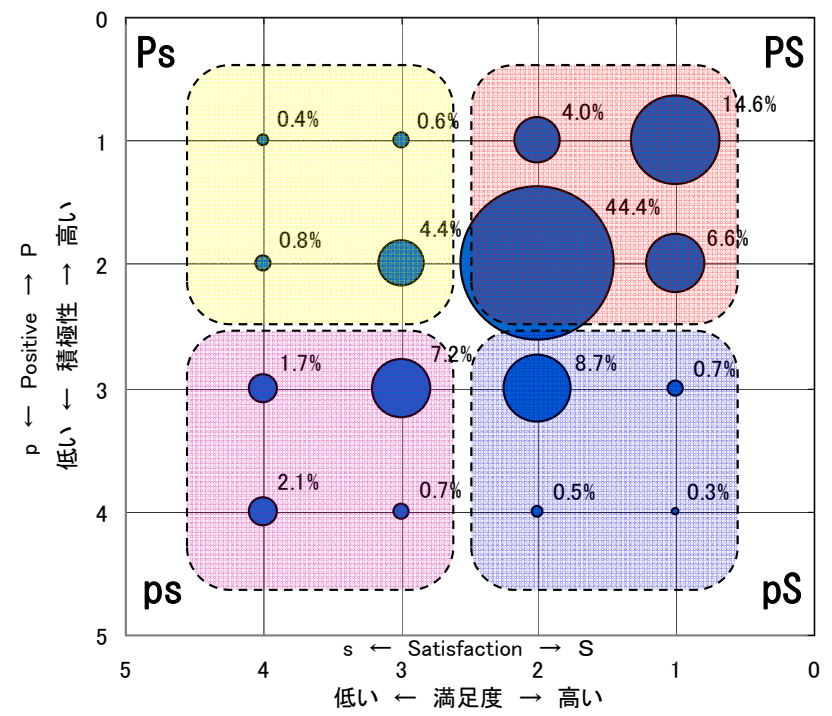
■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	プログラミング基礎	7.44	インターンシップ	6.63	インターンシップ	6.25
2	インターンシップ	7.13	プログラミング基礎	6.25	プログラミング基礎	5.93
3	英語討議技法	6.50	英語討議技法	6.00	英語討議技法	5.79
4	ビジネスシステム	6.03	創造実験Ⅲ	5.42	ビジネスシステム	5.69
5	英語総合技能Ⅰ	6.03	ビジネスシステム	5.34	デザインメソッドⅠ	5.58
6	デザインメソッドⅠ	5.93	デザインメソッドⅠ	5.12	ネットワークシステム	5.47
7	日本文化	5.53	英語総合技能Ⅰ	5.00	創造実験Ⅲ	5.42
8	創造実験Ⅲ	5.42	日本文化	4.72	コンピュータ演習Ⅰ	5.36
9	コンピュータ演習Ⅰ	5.32	エンジニアリングマネジメント	4.50	英語総合技能Ⅰ	5.34
10	情報処理Ⅰ	4.88	カレントイングリッシュ	4.50	情報数学Ⅱ	5.29

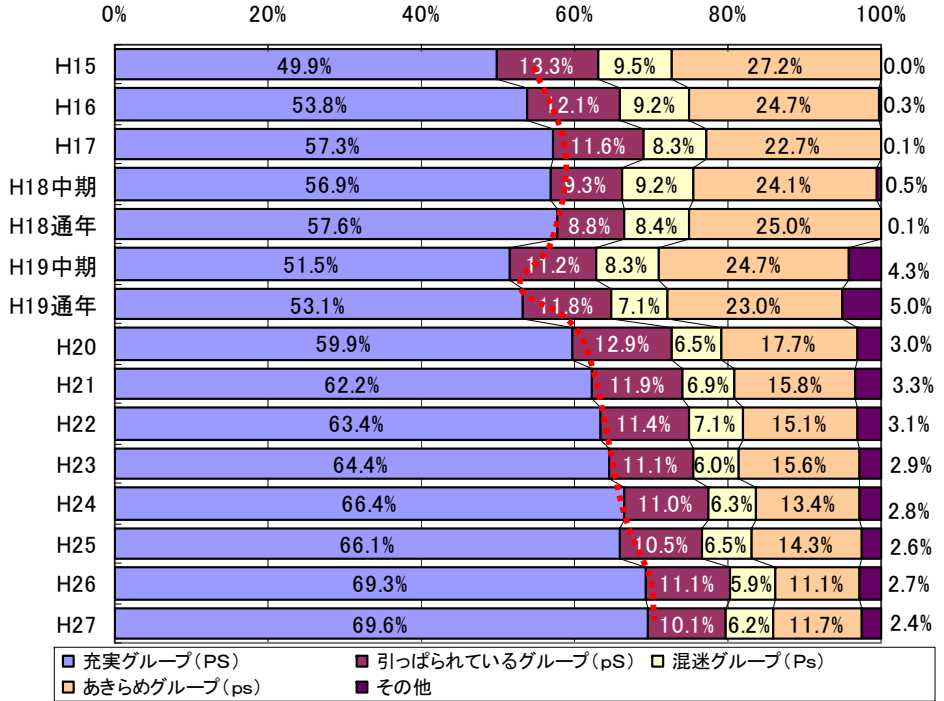
## 1) 全体傾向

- 「積極性」と「満足度」によるPS指標では、積極性、満足度ともに肯定的である「PS・充実グループ」が69.6%であり最も多かった。
- 「PS・充実グループ」は4つの層に分かれるが、「まあ積極的」かつ「まあ満足」という層が44.4%であり、「積極的」かつ「満足」という非常に良い状態の学生は14.6%であった。
- 上記以外では「pS・引っぱられているグループ」が10.1%、「Ps・混迷グループ」が6.2%、「ps・あきらめグループ」が11.7%であった。
- 経年変化を見ると、「PS・充実グループ」は前回の69.3%より0.3ポイント増加して過去最高となり、増加傾向が続いていた。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は前回より0.6ポイントと、わずかに増加していた。

■ 満足度と積極性の関係



■ 満足度と積極性 経年変化

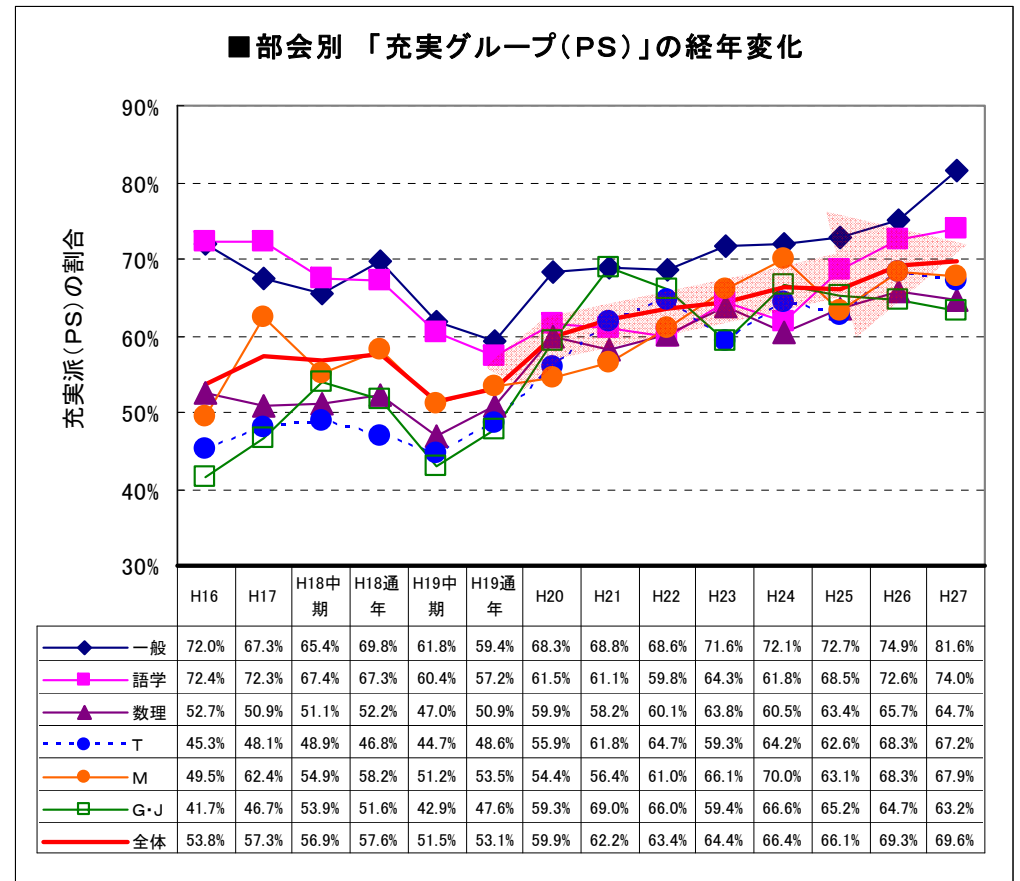
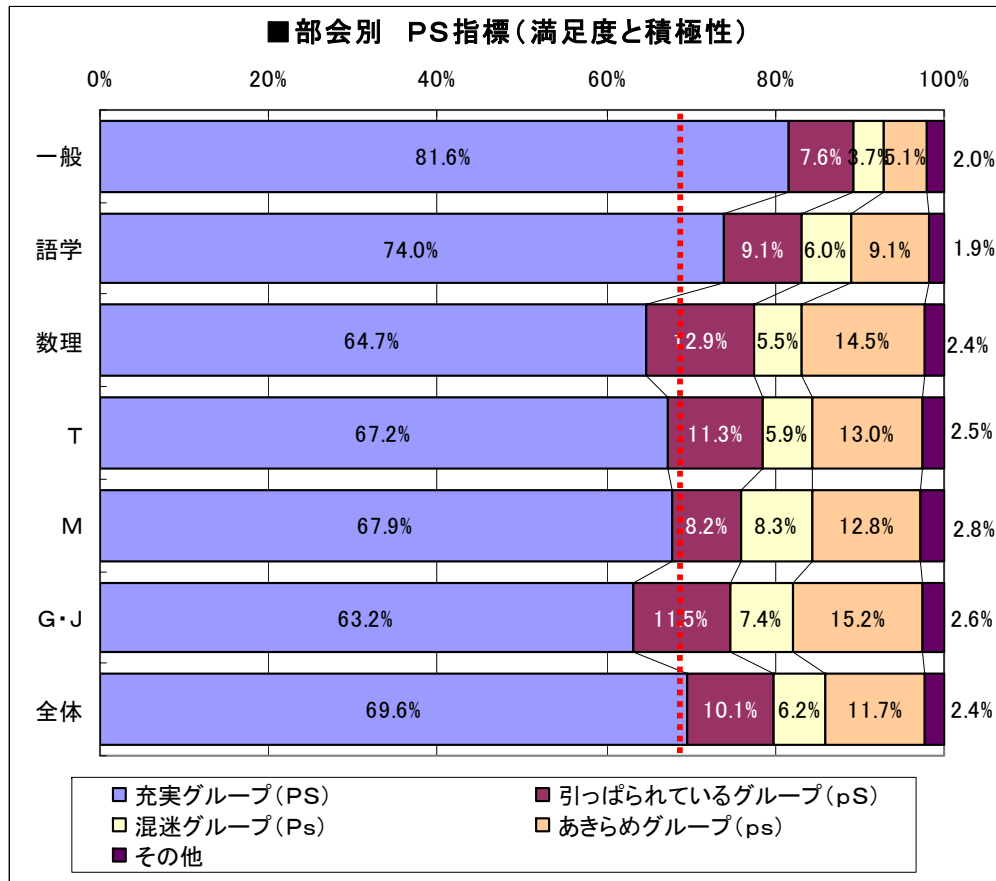


■ PS指標の内訳

記号	指標	想像される特性	領域の合計
PS (充実グループ)	●積極性も満足度も高い	● 授業に積極的に取り組み、結果として満足度も高い。 ● 最も良い状態にあり、達成度も高いと想像できる。	69.6%
pS (引っぱられているグループ)	●積極性は低い ●満足度は高い	●それほど頑張らなかつたが、満足している。周囲、教員に引っぱられてうまくいっている。 ●求めるレベルが低いことも考えられるが、授業が期待以上というケースも考えられる。	10.1%
Ps (混迷グループ)	●積極性は高い ●満足度は低い	●目標が高すぎたことも考えられるが、授業内容が期待はずれ。 ●最も注意すべき状態であり、この層の満足度を上げることが最優先。	6.2%
ps (あきらめグループ)	●積極性も満足度も低い	●授業に期待がなく積極性が低く満足度も低い。 ●まず、授業に取り組む態度を見直させることが必要。	11.7%

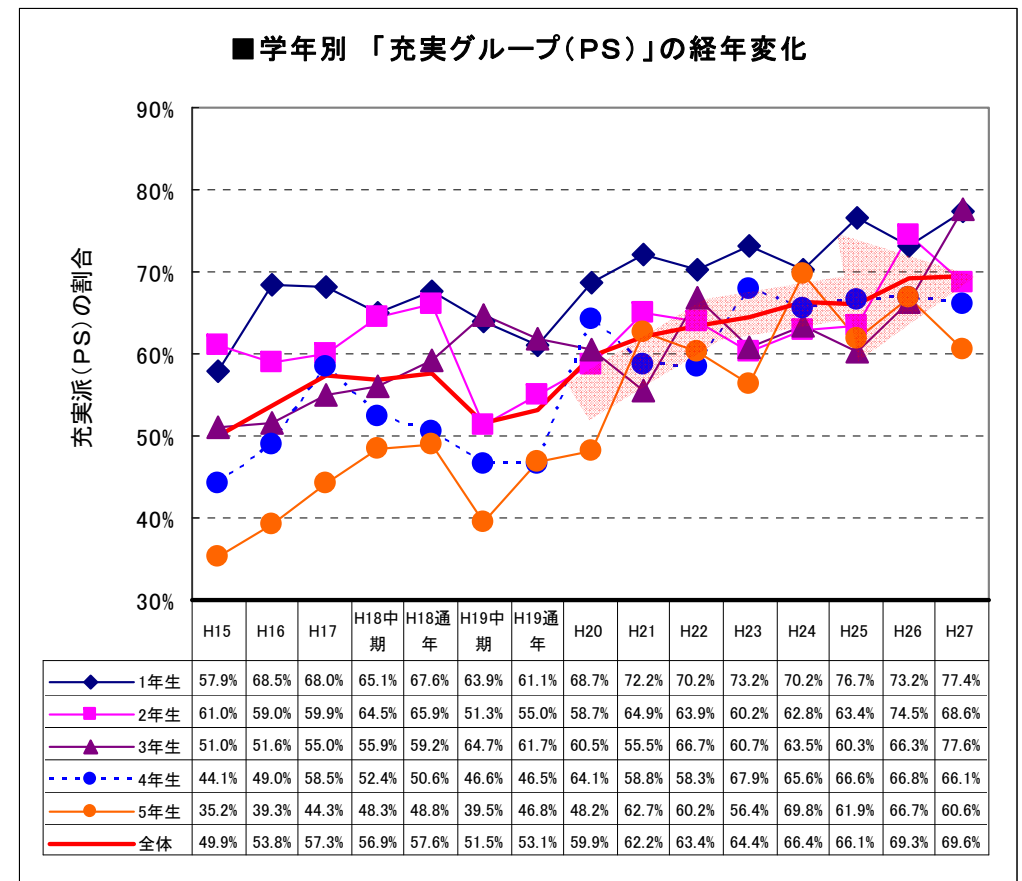
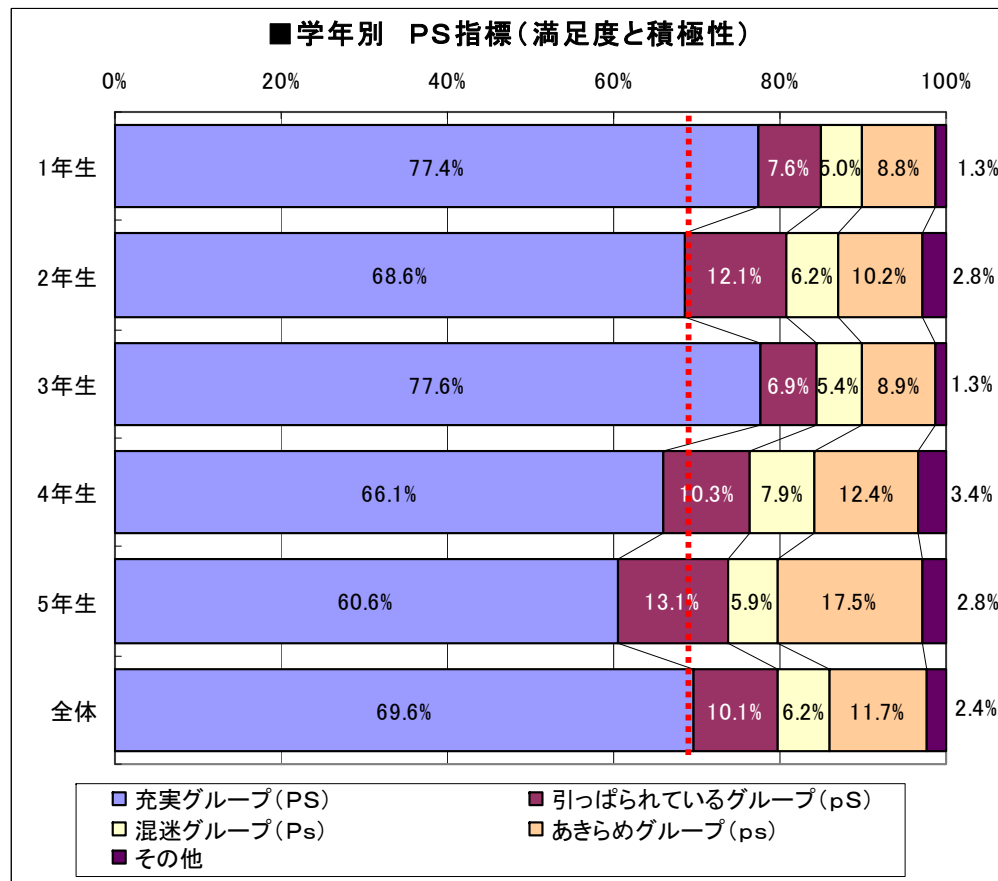
## 2)部会別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」の割合を部会別に比較をすると、「一般」が81.6%と最も多く、8割を超えたのは「一般」だけであった。次いで、「語学」が74.0%、「M」が67.9%と続いていた。そして最も少なかったのは「G・J」の63.2%であった。「ps・あきらめグループ」が最も少なかったのは「一般」の5.1%であり、最も多かったのは「G・J」の15.2%であった。
- 「PS・充実グループ」の経年変化を見ると、「一般」が前回は大きく上回って過去最高となっている点が目立っていた。そして、「語学」もわずかではあるが、前回は上回っていた。
- 上記以外の部会はすべて、わずかに前回は下回っていた。



### 3) 学年別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」を学年別に比較すると、「3年生」が77.6%と最も多く、ほぼ変わらず「1年生」が77.4%となっており、この2学年の充実している様子がうかがえた。次いで、「2年生」が68.6%、「4年生」が66.1%、「5年生」が60.6%と続き、学年との相関は見られず、「3年生」と「5年生」の差は17.0ポイントであった。
- 「ps・あきらめグループ」の割合を見ると、「1年生」と「3年生」が少なく、「5年生」が多いという、上記の裏返しの結果となっていたが、差を見ると「1年生」の8.8%に対して「5年生」は17.5%であり、ほぼ倍の割合となっていた。
- 「PS・充実グループ」の経年変化を見ると、「3年生」が前回より大きく増加して過去最高となっていた。また、「1年生」も前回より増加して過去最高となっていた。一方、「2年生」「5年生」は前回より大きく低下し、「4年生」はわずかに減少する結果となっていた。





## 1) 全体傾向、部会別比較、学年別比較

	分野ごとの意見	まとめ
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 興味を持って授業を受けたという意見が81.8%で、前回は0.6ポイント上回って過去最高となった。</li> <li>□ 自宅での学習時間は過去最高となったが、「しなかった」という回答も前回はわずかに上回っていた。</li> <li>□ 授業に積極的に取り組んだという意見は76.6%で、わずかな差ではあるが過去最高となった。</li> <li>□ 授業に満足しているという肯定的な意見は前回より0.7ポイント下回って80.5%であったが、「満足」だけを見ると過去最高であった。</li> <li>□ 授業評価では「教科書、教材、資料など」の評価が高かった。全項目で肯定的な意見が多く、大きな課題は見られなかった。</li> <li>□ 「教科書、教材、資料など」の評価は過去最高だった。一方、「理解しやすい工夫」「黒板やビデオ・OHP」「話し方や説明」が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「授業に満足している」という肯定的意見は前回は0.7ポイント下回って80.5%となった。</li> <li>▶ 授業に対する「興味」と「積極性」は、いずれも前回は上回って過去最高となった。</li> <li>▶ 自宅での「学習時間」は過去最高であった。</li> <li>▶ 「教科書、教材、資料など」の評価は過去最高であり、授業に大きな課題は見られなかった。</li> </ul>
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「一般」と「語学」が高く、「G・J」と「数理」が低めであった。</li> <li>□ 「宿題、予習、復習時間」は「数理」と「T」が長く時間をとっており、「語学」と「一般」が短かった。</li> <li>□ 「興味」と「積極性」の全体平均はいずれも前回は上回り、「一般」は3指標、「語学」は「積極性」以外が過去最高であった。</li> <li>□ 「一般」と「語学」は全体的に授業の評価が高く、「G・J」「M」は「授業の進め方」など、全体的に低めであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「一般」と「語学」が高く、「G・J」と「数理」が低かった。</li> <li>▶ 「数理」と「T」の科目で「学習時間」が長く、「語学」と「一般」が短かった。</li> <li>▶ 「一般」は3つの指標共に過去最高であり、「語学」は「積極性」以外が過去最高となった。</li> </ul>
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「興味」と「満足度」は「1年生」、「積極性」は「3年生」が最も高く、3つの指標共に「1年生」と「3年生」が上位を占めた。</li> <li>□ 「3年生」の勉強時間が最も長く、「2年生」が続いており、「しなかった」の割合は「4年生」が最も高かった。</li> <li>□ 時系列変化では「3年生」と「1年生」が「興味」「積極性」「満足度」のいずれも過去最高となった。</li> <li>□ 「1年生」は全体的に授業の内容評価が高く、「4年生」「5年生」が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 3つの指標共に「1年生」と「3年生」が過去最高となり、特に「1年生」の「興味」と「満足度」は全学年で最も高かった。</li> <li>▶ 「学習時間」は「3年生」が最も長く、2番目が「2年生」であり、「しなかった」は「4年生」が最も多かった。</li> <li>▶ 授業の評価は「1年生」が高かった。</li> </ul>

---

平成27年度

**KTC授業アンケート調査結果[報告書]**

- 発行日 平成28年6月24日
  - 発行者 金沢工業高等専門学校
  - 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
  - 編集 金沢工業大学企画部CS室
- 

無断複製厳禁